

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	81	—	事業名	消防団運営事業	担当部課	くらし文化部安心安全課
------	----	---	-----	---------	------	-------------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	1	災害に強いまちをつくる	款	8	消防費
		施策の進め方	2	地域消防防災力の強化	項	1	消防費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	2	非常備消防費
		政策分類	6	地域の安心安全をみんなでつくる	大事業	2	消防団運営事業
	その他(関係法令、要綱等)		長久手市消防団条例、長久手市消防団規則				
事業開始の背景、経緯等		昭和40年に消防団の組織が確立し、消防団運営事業を開始した。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 消防団の運営全般に係る事業					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 消防団員を含む全ての市民及び在勤者並びに消防車両、装備等消防団行政に関わるすべて。					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民啓発により消防団への理解を深め、団員の増員を図り、消防車両や装備等を整備することにより消防団体制を整える。					
	事業を構成する事務事業	① 消防団事務事業	② 消防団活性化事業	③ 自動車管理事業	④ 消防団手当	⑤	⑥

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算			2,345	37,450	35,636
決算					1,747	31,910	29,602	
人件費(B)	千円	決算		4,200	10,464	20,137		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		5,947	42,374	49,739		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A	訓練・研修回数	回	目標	-	60	60	60
実績				83	85	82	85	
B	新規入団員数	人	目標	-	10	10	10	10
			実績	9	16	6	9	
C	事故・故障回数	回	目標	-	0	0	0	0
			実績	0	0	0	0	

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 訓練・研修回数により、消防団員の知識・技術の取得状態が判断できる。

B 新規入団員数により、市民の消防団への理解の深まりや団の活性化の進捗が判断できる。

C 事故・故障回数により、消防団車両の管理状態が判断できる。

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様な取組を行っている。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 訓練研修回数は、目標を上回ったが、新規入団者は、入団はあったものの、目標人数に達しなかった。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 活性化事業については地道な活動を行うことが必要であるが、制度を変更する等、これまでとは異なった視点で事業を行う必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 消防の広域化もあり、今後の消防団のあり方を検討しつつ、今後の消防団運営を検討していく必要がある。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 今後数年で、常備消防にぶら下がった体制から脱却する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		消防団運営事業										
番号	①	事務事業名	消防団事務事業		款	8	項	1	目	2	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間		事務事業開始年度		昭和55年度		終了（予定）年度		-						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	消防団員を対象に操法大会及び防災訓練等の行事参加、救命講習等の研修を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	団員に訓練や研修を行うことで必要な知識・技術の向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算	- -	- -	5,931 5,805	6,149 6,688	7,721
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 消防団員等公務災害補償基金負担金						4,274	千円
② MCA無線使用料						596	千円
③ 消耗品費						551	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
訓練・研修回数	回	目標	-	60	60	60	80
		実績	83	85	82	85	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
操法訓練の他、定期訓練に加え、団競練会を実施した。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

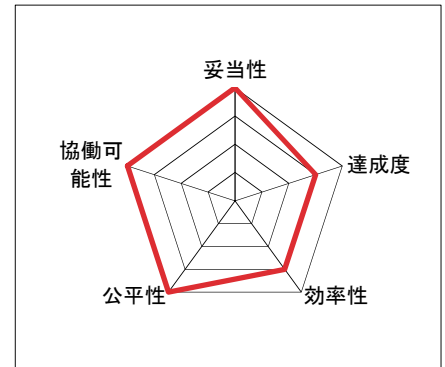
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
全国的に消防団員の減少及び高齢化に伴い、訓練、研修等の参加率が低くなっている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
・ 団全体のレベルを上げるため、定期訓練においては、基本訓練から実施する。 ・ 愛知県消防学校の研修（警防機関科2人、初級幹部科2人、分団指揮課程2人、現場指揮課程2人）に参加する。
(何をどのような状態に改善したのか)
県消防学校での研修を初めて受講することとした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	4



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
愛知県消防操法大会ポンプ車の部で5位入賞した。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
操法訓練技術は向上しているが、実災害対応用の基礎訓練で基礎技術の向上も目指す必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
消防の広域化により、消防団に求められるものが変化してきているので、今後のあり方を検討する必要がある。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		消防団運営事業									
番号	②	事務事業名	消防団活性化事業	款	8	項	1	目	2	大事業	2	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和55年度	終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民等を対象に市の行事において入団促進の事業を行っている。 ・消防団及び団員を対象に災害時に必要な資機材及び安全装備品を購入している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	入団を促進し、団員の増加を図るとともに、必要な資機材及び安全装備品の充実強化を図り、消防団を活性化する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		626 522	7,063 5,912	4,421 3,762	2,724
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 消耗品費						3,115	千円
② 費用弁償						167	千円
③ 広告料						146	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
新入団員	人	目標	-	10	10	10	10
		実績	9	16	6	9	
		目標					
		実績					

<備考：活動の概要（当該事業年度）>

- ・キッズ消防団の設立
- ・新たな広報媒体として、リネモ車内広告を掲載した。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

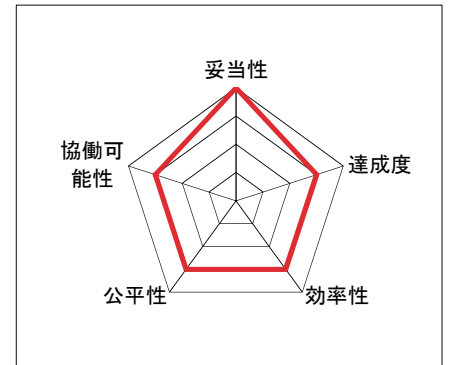
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
全国的に消防団員の減少及び高齢化に伴い、訓練、研修等の参加率が低くなっている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な先進事例を把握し、本市の特徴等を踏まえた新たな入団促進策を検討しながら、今後も継続していく。 ・資機材は、高額なものが多いため、整備計画を踏まえて購入できるように継続していく。
(何をどのような状態に改善したのか)
消防団員の定数再配分や機能別消防団の設立に向け協議を開始した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
将来の消防団の担い手育成としてキッズ消防団を設立した。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
正規の消防団員の加入促進事業は、地道な活動を続けるとともに、新たな手法も検討する必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
消防団に新たな区分として、機能別消防団員を設立し、大規模災害時に不足する消防力を補完できるよう検討していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		消防団運営事業										
番号	③	事務事業名	自動車管理事業		款	8	項	1	目	2	大事業	2	中事業	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和55年度		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	消防団車両9台を対象に車検及び6か月点検、12か月点検を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	災害出動に即応するため、消防用車両を常時出動可能な状態にする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算	-	-	1,445 991	1,807 990	1,862
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 重量税						207	千円
② 自動車損害保険料						197	千円
③ 燃料費						147	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事故・故障回数	回	目標	-	0	0	0	0
		実績	0	0	0	0	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
車検6台、12か月点検3台、6か月点検9台を実施した。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

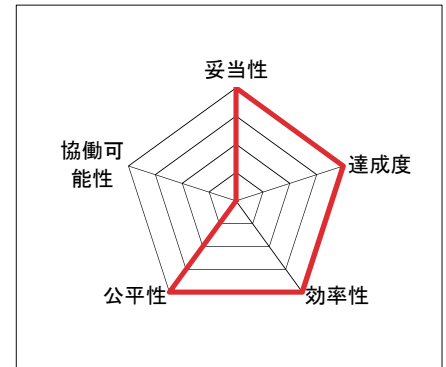
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
他市町においても同様な取組を行っている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
他市では車検切れ車両の報告があるため、管理する車両の点検・車検の年間予定表を作成し、適切に管理を行っている。
(何をどのような状態に改善したのか)
年間予定表を課内共有し、適切に管理した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	4
公平性	4
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
平成27年度以降、消防団車両を無事故・無故障とすることができ、いつでも出動可能な状態に保つことができた。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
法定点検外のポンプ点検が年度末になった。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
消防団事務局の移転に伴い、管理体制が変わるので、年間予定表を作成し、漏れのないように管理していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		消防団運営事業									
番号	④	事務事業名	消防団手当	款	8	項	1	目	2	大事業	2	中事業	4
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和55年年度	終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	消防団員122人を対象に長久手市消防団条例に基づき報酬及び費用弁償を支給する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	条例に基づいた適正な支払いを行う。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		-	23,011	23,259	23,441
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 費用弁償						9,710	千円
② 消防団員報酬						5,280	千円
③ 消防団員退職報償金						1,762	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
支給ミス	人	目標	-	0	0	0	0
		実績	0	0	0	0	0
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
消防団員の活動に対し、手当を支給する。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

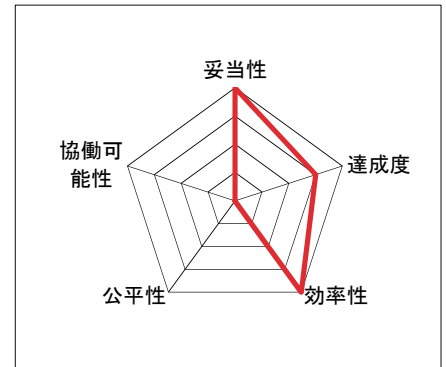
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
他市町においても同様な取組を行っている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
報酬及び費用弁償の調査を行い、必要に応じて金額の改正を行う。
(何をどのような状態に改善したのか)
報酬及び費用弁償の増額を検討し協議を開始した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	-
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
複数人によるチェックで、支給ミスを起こさなかった。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
新規入団者の口座情報等をその場で取得しないと、支給ができない。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
報酬及び費用弁償の増額を検討し、条例改正を検討する。